

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期、2期	佐藤博信	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	外科学概論		2 単位 60 時間

<p><b>【科目概要】</b>          外科学の基礎的な項目（損傷・感染・腫瘍・ショック輸血・輸液・消毒・手術・麻酔・免疫など）について講義する          各論では各臓器の解剖・生理・疾患・治療法について講義する</p>
<p><b>【到達目標】</b>          一般外科の基礎的事項についての知識を修得する          手術および各臓器の疾患の特徴や治療に関する知識を修得する          暗記するだけでなく疾患のメカニズムを理解する</p>
<p><b>【授業外における学習方法】</b>          授業で配布するプリントを熟読し関連国試過去問を徹底的に復習する</p>
<p><b>【成績評価方法】</b>          期末試験並びに卒業試験          試験（100％）で評価する 100点満点で60点以上を合格とする          単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、再試験を実施する。</p>
<p><b>【使用教材】</b>          外科学概論 南江堂 改訂第4版</p>
<p><b>【その他】</b>          後から勉強すればよいというのではなく、それぞれの授業中に知識を修得し理解しておく          受動的に講義を聴いているだけでなく、能動的に積極的に自ら進んで理解するようにしましょう</p>

【 講義の内容・日程 】			
回		講義内容	備考 教科書
1	4/10	外科の歴史・現在の外科学・損傷	講義 3～8P
2	4/17	交通外傷・ドライバー外傷・特殊な損傷・創傷	講義 8～15P
3	4/24	熱傷	講義 15～22P
4	5/8	炎症と外科感染症	講義 23～32P
5	5/15	腫瘍 概念	講義 33～42P
6	5/22	腫瘍 診断	講義 42～45P
7	5/29	腫瘍 治療	講義 45～49P
8	6/5	ショック	講義 51～55P
9	6/12	輸液・輸血	講義 57～71P
10	6/19	消毒・滅菌/外科的診断法	講義 73～75P
11	6/26	手術	講義 77～84P
12	7/3	麻酔	講義 85～94P
13	7/10	移植と免疫	講義 96～99P
14	7/17	出血と止血	講義 101～111P
15	7/31	試験解説・救命救急	講義 113～120P
16	8/28	脳神経外科疾患	講義 123～139P
17	9/4	脳神経外科疾患	講義 123～139P
18	9/11	甲状腺頸部疾患	講義 141～143P
19	9/18	胸壁・呼吸器疾患	講義 145～158P
20	9/25	胸壁・呼吸器疾患	講義 145～158P
21	10/2	肺疾患	講義 145～158P
22	10/9	心臓疾患	講義 159～167P
23	10/16	心臓疾患	講義 159～168P
24	10/23	脈管疾患	講義 169～176P
25	10/30	乳腺疾患	講義 177～184P
26	11/6	腹部外科疾患 症状・検査	講義 185～225P
27	11/13	管腔臓器	講義 185～225P
28	11/20	肝・胆・膵疾患	講義 185～225P
29	11/27	急性腹症・イレウス	講義 185～225P
30	12/11	試験解説・国試	講義 —

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 3年生 第1期、2期	担当教員 小堀 孝浩	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 リハビリテーション医学		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

授業は患者のもつ障害に対し、医師および専門職が力を合わせて良いリハビリテーション医療を行うために、リハビリテーション医学の知識と技術を学習する。具体的には、①障害やリハビリテーションの方法を学ぶことで、リハビリテーション医学の理解を深める。②リハビリテーションに必要な検査を学び、実際に利用できるようになる。③障害や各疾患におけるリハビリテーション医学の知識を深め、臨床現場で必要な病態・検査・治療法を理解できるようになる。

## 【到達目標】

リハビリテーション医学を学ぶことで、卒業後の臨床現場で役立つ評価の仕方や技術・アプローチを理解・身につけることを目標に取り組む。そして、リハビリテーションにおける関わり方や多職種連携のできる医療従事者になれるように、知識や技術を学ぶ。また、リハビリテーション医学に関わる障害や各疾患についても深く学ぶ。

## 【授業外における学習方法】

教科書で復習するだけでなく、自分の身体や友人の身体を実際に触ったり、動かしたり、検査方法の練習をすることで、身体で覚えるようにする。それにより、卒業後の臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【使用教材】

- ・リハビリテーション医学（南江堂）の教科書を使用
- ・担当教員が毎回授業資料を配布

## 【その他】

・授業の進行状況により、触診の練習や関節可動域測定の練習、徒手筋力検査（MMT）の練習もできる時があれば取り組む。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	リハビリテーションの総論① p.1-18	講義
2	リハビリテーションの総論② p.19-30	講義
3	リハビリテーション評価学① p.31-56	講義
4	リハビリテーション評価学② p.31-56	講義
5	リハビリテーション評価学③ p.31-56	講義
6	リハビリテーション評価学④、リハビリテーション障害学と治療学① p.31-56、p.57-108	講義
7	リハビリテーション障害学と治療学② p.57-108	講義
8	リハビリテーション障害学と治療学③ p.57-108	講義
9	リハビリテーション医学の関連職種 p.109-117	講義
10	リハビリテーション治療技術① p.119-155	講義
11	リハビリテーション治療技術② p.119-155	講義
12	リハビリテーション治療技術③ p.119-155	講義
13	リハビリテーション治療技術④ p.119-155	講義
14	リハビリテーション治療技術⑤ p.119-155	講義
15	試験解説・リハビリテーション評価学の実技①	講義
16	1学期の復習・高齢者のリハビリテーション①(フレイル・認知症等) p.157-176	講義
17	高齢者のリハビリテーション②(パーキンソン病・脳卒中①) p.157-176	講義
18	高齢者のリハビリテーション③(パーキンソン病・脳卒中②) p.157-176	講義
19	運動器のリハビリテーション①(骨粗鬆症①) p.177-201	講義
20	運動器のリハビリテーション②(骨粗鬆症②) p.177-201	講義
21	運動器のリハビリテーション③(上肢損傷後症候群①) p.205-217	講義
22	運動器のリハビリテーション④(上肢損傷後症候群②) p.205-217	講義
23	運動器のリハビリテーション⑤(腰痛症) p.231-238	講義
24	運動器のリハビリテーション⑥(頰腕症候群) p.225-231	講義
25	運動器のリハビリテーション⑦(下肢損傷後症候群①) p.217-225	講義
26	運動器のリハビリテーション⑧(下肢損傷後症候群②) p.217-225	講義
27	運動器のリハビリテーション⑨(アキレス腱断裂)、リハビリテーション評価学の実技② p.238-244	講義
28	リハビリテーションと福祉、障害者スポーツ、国家試験対策① p.245-250、p.251-257	講義
29	国家試験対策②・リハビリテーション評価学の実技③	講義
30	試験解説・国家試験対策③	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 3年生 第1期、2期	担当教員 仲座 政宏	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 衛生学・公衆衛生学		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

- ①臨床医学が個人の疾病を対象とするものであるのに対し、公衆衛生は集団の健康を対象とするものである。
- ②健康の概念は社会や環境、時代と共に変化しており、それに合わせて公衆衛生活動も変化してきた。
- ③現代の公衆衛生は予防医学、環境の改善、生活水準の保障、健康教育などを推進する実践の学問である。

## 【到達目標】

- ①公衆衛生学の目的は、人々を取り巻く環境を理解し、傷病を予防し、健康の保持・増進を図ることである。
- ②生態系を基盤とした集団および個人の健康を理解する。また、人間の生涯のそれぞれの段階における公衆衛生の実践活動を通して、予防活動の重要性を教授する。
- ③保健医療及び福祉・介護体系の中で、医療人（柔道整復師）としての管理能力を身につける。

## 【授業外における学習方法】

授業後の毎回の復習に重点を置き、常日頃から、身の回りで起きている衛生・公衆衛生学的事例に関心を向けるよ

## 【成績評価方法】

定期試験の成績、毎回授業後に実施する課題テスト（国試形式の4択で3ないし5問）の提出状況を加味して、総合的に評価する。

## 【使用教材】

教科書：「シンプル衛生公衆衛生学2025」辻 一郎 監修、南江堂  
参考書：国民衛生の動向 2024/2025、一般財団法人 厚生労働統計協会

## 【その他】

授業で話す内容は、教科書に準拠しますが、毎回資料（パワーポイントで作成）を配布する。

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考 (教科書)
1	4/9	衛生学・公衆衛生学序論	第1章 1-16頁
2	4/16	健康をめぐって(WHOの定義、日本国憲法)	
3	4/23	保健統計(健康の測定と健康指標・人口統計)	第2章 19-30頁
4	5/7	疾病予防と健康管理	第4章 53-84頁
5	5/14	疾病の自然史と予防(健康日本21、健康増進法)	
6	5/21	①集団検診 ②検査精度の指標:感度・特異度・陽性的中度	
7	5/28	主な傷病の予防 ; ①感染症の予防	第5章 85-142頁
8	6/4	②循環器系疾患の予防	
9	6/11	③糖尿病・脂質異常症・メタボリック症候群の予防	
10	6/18	④がんの予防・腎疾患・アレルギー疾患の予防	
11	6/25	消毒(①消毒法の種類、②消毒薬の使用領域、③消毒水準からみた消毒薬の選択)	
12	7/2	環境保健;①人間の環境(環境汚染から地球環境問題へ)	第6章 143-226頁
13	7/9	②環境の把握とその評価・対策	
14	7/16	③物理的環境要因・化学的環境要因・生物学的環境要因	
15	7/30	④大気汚染・水質汚濁・衣食住の衛生・環境管理	
16	8/27	地域保健と保健行政の ; 地域保健活動と行政	第7章 227-244頁
17	9/3	母子保健 ; ①母子保健の水準	第8章 245-260頁
18	9/10	②母子保健の課題、母子保健活動と行政	
19	9/17	学校保健; ①学校保健の現状と対策、②学校感染症、③学校環境衛生	第9章 261-288頁
20	9/24	産業保健 ; ①働く人々の健康、②労働災害・事故、③職業病	第10章 289-318頁
21	10/1	④職場における健康診断と健康増進	
22	10/8	⑤職場におけるメンタルヘルス対策・過重労働対策	
23	10/15	高齢者の保健・医療・介護; ①高齢者の保健と医療	第11章 319-336頁
24	10/22	②後期高齢者医療制度	
25	10/30	精神保健 ; 障害者福祉と精神保健福祉	第12章 337-356頁
26	11/5	疫学 ; ①疫学概念(健康状態・疾病の測定と評価)	第3章 31-52頁
27	11/12	②疫学的研究事例の紹介(症例対照研究・コホート研究・介入研究など)	
28	11/19	国際保健医療 ; 国際保健の概要・WHOの役割と課題	第13章 357-372頁
29	11/26	保健医療福祉の制度と法規 ; ①地域保健法の概要	第14章 373-396頁
30	12/10	②医療の倫理と安全の確保	

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期	川上智志	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	職業倫理		1 単位 15 時間

## 【科目概要】

医療人としての質を確保するため、医療従事者の医療倫理に関して、医療における従来の倫理観から現代的倫理観への経緯と柔道整復師としての基本的倫理観の理解する。また、柔道整復師として日常の業務で遭遇するさまざまな患者対応について、ケース・スタディを用いて生徒間の意見共有をはかりながら学習を展開していく。

## 【到達目標】

ケース・スタディを通して、他者と協力して課題に取り組む力や主的に考え、行動する力を身に付ける。医療従事者としての職業倫理を適切に把握し、柔道整復師としての業務に携わる際に、適切な判断ができるようになる。

## 【授業外における学習方法】

授業での学習内容の復習を徹底する。

## 【成績評価方法】

各授業内で実施する課題により評価する。

## 【使用教材】

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)  
配布プリント

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	職業倫理・医療倫理、患者の権利	講義
2	個人情報の保護、医療の安全(リスクマネジメント)	講義
3	医療の安全(医療事故と医療過誤)	講義
4	ケース・スタディ	講義
5	ケース・スタディ	講義
6	ケース・スタディ	講義
7	ケース・スタディ	講義
8	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第2期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	関係法規		1 単位 30 時間

## 【科目概要】

まず、法の基礎を解説する。

その後、柔道整復師に関連する法を中心に、柔道整復師の法的位置づけと業務に関する法を解説する。

さらに、医療に関するその他の法を解説する。

## 【到達目標】

- ・柔道整復師の法的な位置づけを理解する。
- ・柔道整復の業務に関連する法を理解する。
- ・医療に関する法を理解する。

## 【授業外における学習方法】

- ・講義にて配布した資料の復習をすること。
- ・ニュース、新聞等を用いて、医療に関する法改正等の最新の情報を得ること。

## 【成績評価方法】

定期試験（70％）、授業内実施の確認テスト（30％）

授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

## 【使用教材】

- ・関係法規 2025年版 全国柔道整復学校協会 監修（医歯薬出版）
- ・配布プリント

## 【その他】

- ・教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
- ・適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	法の意義、法の体系 pp.1～8	講義
2	柔道整復師法の目的、柔道整復師免許 pp.10～14	講義
3	柔道整復師名簿、柔道整復師免許証 pp.14～19	講義
4	柔道整復師国家試験 pp.20～23	講義
5	柔道整復師の業務 pp.24～28	講義
6	施術所、広告 pp.29～36	講義
7	罰則、指定登録機関及び指定試験機関 pp.37～44	講義
8	柔道整復師法に関するまとめ	講義
9	医療従事者の資格法(医師法、歯科医師法) pp.47～56	講義
10	医療従事者の資格法(保健師助産師看護師法、薬剤師法など) pp.56～68	講義
11	医療法①(総論) pp.69～78	講義
12	医療法②(病院、診療所及び助産所) pp.79～90	講義
13	社会福祉関係法規、社会保険関係法規 pp.91～104	講義
14	個人情報保護法 pp.105～109	講義
15	柔道整復師法および関係法規のまとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 午前部
開講年度 2025 年度	履修課程 3年生 1期	担当教員 紺野 直能	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道③		1 単位 30 時間

## 【到達目標】

武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

## 【科目概要】

柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。

## 【授業外における学習方法】

### 【成績評価方法】

評価項目：授業意欲、実技試験、（レポート）。  
評価割合：授業意欲、態度50%、実技試験50%の合計100%  
※出席回数（各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

## 【使用教材】

柔道（南江堂）

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	礼法、姿勢、歩き方、受身(後受身、前受身、横受身、前回受身)	実技
2	手技(浮落、背負投、肩車)	実技
3	手技(浮落、背負投、肩車)	実技
4	腰技(浮腰、払腰、釣込腰)	実技
5	腰技(浮腰、払腰、釣込腰)	実技
6	足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
7	足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
8	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
9	礼法、受身、立技 打込、移動打込、投込、乱取	実技
10	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
11	礼法、受身、立技 打込、移動打込、投込、乱取	実技
12	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
13	礼法、受身、立技 打込、移動打込、投込、乱取	実技
14	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技
15	手技(浮落、背負投、肩車)、腰技(浮腰、払腰、釣込腰)、足技(送足払、支釣込足、内股)	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	社会保障制度		1 単位 15 時間

## 【科目概要】

患者に対する施術は外傷等に苦しむ者を支えるために不可欠のものであるが、治療費等の経済面も大きな悩みとなる。また多くの障害者や高齢者は、高い医療ニーズに加え、生活面での基本的なニーズ等をもっており、彼らの支援にかかわる制度の全体を知らずに、障害者や高齢者を支えることは不可能になっている。支援に関わる制度や柔道整復師の療養費に関わる制度について学ぶ。

## 【到達目標】

柔道整復師は開業することが可能である。医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を身に付ける。

## 【授業外における学習方法】

- ・講義にて配布した資料の復習をすること。
- ・ニュース、新聞等を用いて、社会保障制度に関する最新の情報を得ること。

## 【成績評価方法】

原則、定期試験にて評価する。

授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者、小テストについて10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

## 【使用教材】

- ・社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)
- ・配布プリント
- ・関係法規 2025年版 全国柔道整復学校協会 監修 (医歯薬出版)

## 【その他】

- ・教科書および配布プリントを用いた講義形式にて行う。
- ・適宜、確認テストを行うので、復習を必ず行うこと。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	社会保障とは pp.1～4	講義
2	社会福祉制度 pp.4～7	講義
3	社会保険制度(公的年金) pp.4～6	講義
4	社会保険制度(介護保険) pp.6	講義
5	社会保険制度(医療保険) pp.7～16	講義
6	柔道整復師の療養費(受領委任払い) pp.19～25	講義
7	柔道整復師の療養費(施術管理者制度) pp.23～32	講義
8	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期、2期		
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学④	2 単位	60 時間

## 【科目概要】

1,2年時までに学んだ柔道整復理論と解剖学の知識をもとに、臨床応用を想定しうる講義・演習を行う。プリントを中心に講義を行い、問題演習にて習熟度の確認を行う。

## 【到達目標】

柔道整復の臨床応用を理解するために必要な解剖学的な基礎知識を幅広く学習する。

柔道整復師に必要な解剖学の知識を用い、様々な問題に対応を可能とすることを到達目標とする。

- ・骨折、脱臼またその転位や合併症に関わる「骨の構造および関節構造・筋の付着と作用」について説明できる
- ・外傷の合併症の理解に関連する「内臓器（脈管・消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器・中枢神経）」について説明できる
- ・上記の理解した内容を元に選択肢問題に対応できる

## 【授業外における学習方法】

- ・数講義に一度授業内テストを行う為、間違えた場所を確認していただきたい。
- ・項目別の確認事項をまとめた小冊子を渡すため、復習に利用していただきたい。
- ・復習に時間をかけ、内容をすべて理解すること。約60時間の授業外学修が必要になる。
- \*プリントは広く浅い範囲をまとめているため、周辺内容は教科書で確認してもらいたい。

## 【成績評価方法】

- ・講義形式と問題演習形式にて行う。
- ・合計6回の授業内確認テストにて習熟度の確認（総合評価に関わる）を行う。
- \*授業の進捗度によって、内容の変更・増減・順序の入れ替え等を行う場合がある。
- \*授業内確認テストを休んだ場合には、原則翌週の授業を行うまでに担当教員に連絡すること。

## 【使用教材】

- ・配布プリント
- ・柔道整復学（理論編） 全国柔道整復学校協会 第6版 医歯薬出版
- ・解剖学 全国柔道整復学校協会 第2版 医歯薬出版

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と「細胞と組織」 損傷の治癒過程に関係する「細胞と組織」の知識を学ぶ。	講義
2	柔道整復師と「脈管系(心臓～動脈)」 外傷時の合併症の理解に必要な「脈管系」の知識を学ぶ。	講義
3	柔道整復師と「脈管系(静脈～リンパ)」 外傷時の合併症の理解に必要な「脈管系」の知識を学ぶ。	講義
4	第1回～3回 「細胞と組織」「脈管系」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義
5	柔道整復師と「消化器(口腔～直腸)」 外傷時の合併症の理解に必要な「口腔内の構造」、および「消化管(食道～直腸)」の知識を学ぶ。	講義
6	柔道整復師と「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、腹膜」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)」の知識を学ぶ。	講義
7	柔道整復師と「呼吸器(鼻～肺)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「呼吸器(鼻～肺)」の知識を学ぶ。	講義
8	第5回～第7回 「消化器・呼吸器」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義
9	柔道整復師と「泌尿器(腎臓～尿道)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「泌尿器(腎臓～尿道)」の知識を学ぶ。	講義
10	柔道整復師と「生殖器(男性・女性)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器(男性)」の知識を学ぶ。	講義
11	第9回～第10回「泌尿・生殖器」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義
12	柔道整復師と「神経系(脳)」 頭部外傷時の合併症に関連する中枢神経障害の理解に必要な「神経系(脳)」の知識を学ぶ。	講義
13	柔道整復師と「神経系(脊髄・伝導路)」 外傷時の合併症に関連する中枢・末梢神経の障害の理解に必要な「神経系(脊髄・伝導路)」の知識を学ぶ。	講義
14	柔道整復師と「神経系(末梢神経)」 外傷時の合併症に関連する末梢神経障害の理解に必要な「神経系(末梢神経)」の知識を学ぶ。	講義
15	第12回～第14回「生殖器」「神経系」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義
16	柔道整復師と「神経系(脳・脊髄・神経)」復習と問題演習 外傷時の合併症の理解に必要な「神経系」の知識を学ぶ。	講義
17	柔道整復師と「感覚器(外皮・視覚器)」 外傷時に合併する皮膚損傷の理解に必要な「外皮」および頭部外傷の合併症の理解に必要な「視覚器」の知識を学ぶ。	講義
18	柔道整復師と「感覚器(聴覚器)」 頭部外傷の合併症の理解に必要な「聴覚器」の知識を学ぶ。	講義
19	柔道整復師と「内分泌器」 骨の癒合および病的骨折の発生機序の理解に必要な「内分泌器」の知識を学ぶ。	講義

20	第18回～第21回「神経系」「感覚器」「内分泌器」のまとめ。 *授業内確認テストを実施する。	講義
21	柔道整復師と「骨の構造、関節の構造、全身の筋」 骨折および、その治癒過程の理解に必要な「骨の構造」、また脱臼の理解に必要な「関節の構造」、 骨折時の骨転移の理解に必要な「全身の筋」の知識を問題形式にて学ぶ。	講義
22	柔道整復師と「上肢・下肢の筋」 骨折時の骨転移の理解に必要な「全身の筋」の知識を問題形式にて学ぶ。	講義
23	第1回～第3回 柔道整復師に必要な「細胞と組織」「脈管系」についての問題演習と再復習	講義
24	第5回～第7回 柔道整復師に必要な「消化管」「呼吸器」についての問題演習と再復習	講義
25	第9回～第10回 柔道整復師に必要な「泌尿器」「生殖器」についての問題演習と再復習	講義
26	第12回～第14回 柔道整復師に必要な「神経系」についての問題演習と再復習	講義
27	第17回～第19回 柔道整復師に必要な「感覚器」「内分泌」についての問題演習と再復習	講義
28	総合復習1 第23回～第28回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義
29	総合復習2 第23回～第28回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習) *授業内確認テストを実施する。	講義
30	総合復習3 第23回～第28回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期、2期	村越 嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑤	2 単位	60 時間

## 【科目概要】

- ・柔道整復師からみた柔道整復学と生理学のつながりを学び実践に活用できることを授業のねらいとする。

## 【到達目標】

- ・柔道整復師に必要な生理学領域の知識を総合的に用いて様々な問題の対応を可能にすることを目標とする。

## 【授業外における学習方法】

- ・これまでに使用した柔道整復理論と生理学の教科書、資料などを揃えておき、次回行われる授業内容に関して予習を行っておくこと。又、復習に時間をかけ、内容を全て理解すること。

## 【成績評価方法】

- ・講義内試験【100%】にて評価する。
- ・合格点に満たない学生には、課題を実施し、総合的に評価する。

## 【使用教材】

- ・柔道整復学理論編第7版 南江堂
- ・生理学第4版 南江堂
- ・生理学インパクト 医道の日本社

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と「体の機能:総論」	講義
2	柔道整復師と「体の機能:筋」	講義
3	柔道整復師と「体の機能:神経①」	講義
4	柔道整復師と「体の機能:神経②」	講義
5	柔道整復師と「体の機能:運動①」	講義
6	柔道整復師と「体の機能:運動②」	講義
7	柔道整復師と「体の機能:感覚①」	講義
8	柔道整復師と「体の機能:感覚②」	講義
9	授業内試験①	演習
10	柔道整復師と「体の機能:内分泌①」	講義
11	柔道整復師と「体の機能:内分泌②」	講義
12	柔道整復師と「体の機能:生殖」	講義
13	柔道整復師と「体の機能:血液」	講義
14	柔道整復師と「体の機能:骨」	講義
15	柔道整復師と「体の機能:循環①」	講義
16	柔道整復師と「体の機能:循環②」	講義
17	授業内試験②	演習
18	柔道整復師と「体の機能:呼吸①」	講義
19	柔道整復師と「体の機能:呼吸②」	講義
20	柔道整復師と「体の機能:尿の生成と排泄」	講義
21	柔道整復師と「体の機能:栄養と代謝」	講義
22	柔道整復師と「体の機能:消化と吸収①」	講義
23	柔道整復師と「体の機能:消化と吸収②」	講義
24	柔道整復師と「体の機能:体温とその調節」	講義
25	柔道整復師と「体の機能:高齢者・競技者の生理学的特徴と変化」	講義
26	授業内試験③	演習
27	総合問題演習	演習
28	総合問題演習	演習
29	総合問題演習	演習
30	総合問題演習	演習

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期、2期	◎大林典弘、吉田晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑥		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

- ・柔道整復師の業務に関連する最低限必要な知識に関する演習および演習に対する知識を深める講義を行う。
- ・それぞれの損傷について、発生要因、機序、骨片転位に作用する筋群との関連、特徴および臨床症状を中心に、その応急処置の重要性、施術の意義を理解し、技術を修得する。

## 【到達目標】

- ・最終学年として、これまでに学んだ教科について再確認し、柔道整復師としてスタートラインに立つために最低限必要な知識の修得を狙いとする。
- ・柔道整復師に必要な幅広い知識と応用力を身につけることを到達目標とする。

## 【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。

## 【成績評価方法】

- ・授業内実施の確認テスト、履修状況(課題の提出、授業への積極的な参加など)で評価する。
  - ・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。
  - ・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。
  - ・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価する。
- ※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

## 【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

## 【その他】

- ・演習形式と講義形式の2パターンで実施する。
  - ・これまでに学んだ科目を包括的に問題演習し、演習で正答率の低かった内容を中心に講義を行う。
- ※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) 柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる上肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
2	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる下肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
3	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる体幹の運動器疾患を中心に	講義・演習
4	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる運動療法を中心に	講義・演習
5	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる物理療法を中心に	講義・演習
6	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる頭部外傷を中心に	講義・演習
7	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる救急医学を中心に	講義・演習
8	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる骨の疾患を中心に	講義・演習
9	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる関節の疾患を中心に	講義・演習
10	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる筋の疾患を中心に	講義・演習
11	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる胸腹部外傷を中心に	講義・演習
12	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、関係法規との関連 柔道整復に関わる医療法を中心に	講義・演習
13	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる感染症を中心に	講義・演習
14	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる職業病を中心に	講義・演習
15	復習1および前期総括(第1回～第14回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第14回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト1(第1～14回講義分)	講義・演習

16	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
17	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
18	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織③) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
19	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織④) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
20	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織⑤) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
21	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織⑥) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
22	復習2(第16回～第21回の復習を目的とする) 事前学習: 第16回～第21回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト2(第16～21回講義分)	講義・演習
23	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
24	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
25	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織③) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
26	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織④) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
27	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織⑤) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
28	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織⑥) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	講義・演習
29	復習3(第23回～第28回の復習を目的とする) 事前学習: 第23回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト3(第23～28回講義分)	講義・演習
30	復習4および総括(第16回～第28回の復習を目的とする) 事前学習: 第16回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト4(第16～28回講義分)	講義・演習

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025 年度	3年生 第2期	吉田 晋 瀬谷智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑦	2 単位	60 時間

## 【科目概要】

柔道整復師の業務に関連する最低限必要な知識に関する演習を行う。

## 【到達目標】

最終学年として、これまでに学んだ教科について再確認し、柔道整復師としてスタートラインに立つために最低限必要な知識の修得を狙いとする。

柔道整復師に必要な幅広い知識と応用力を身につけることを到達目標とする。

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

- ・原則、毎時限、授業内で実施する確認テストの平均点を評価とする。

## 【使用教材】

適宜配付するプリントを使用する。

その他、解答解説に必要な参考書、これまで使用した教科書等を準備すること。

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復学と内科学との関連 呼吸器疾患を中心に	講義
2	柔道整復学と内科学との関連 呼吸器疾患を中心に	講義
3	柔道整復学と内科学との関連 循環器疾患を中心に	講義
4	柔道整復学と内科学との関連 循環器疾患を中心に	講義
5	柔道整復学と内科学との関連 消化器疾患を中心に	講義
6	柔道整復学と内科学との関連 消化器疾患を中心に	講義
7	柔道整復学と内科学との関連 内分泌疾患を中心に	講義
8	柔道整復学と内科学との関連 内分泌疾患を中心に	講義
9	柔道整復学と内科学との関連 血液疾患を中心に	講義
10	柔道整復学と内科学との関連 血液疾患を中心に	講義
11	柔道整復学と内科学との関連 膠原病疾患を中心に	講義
12	柔道整復学と内科学との関連 膠原病疾患を中心に	講義
13	柔道整復学と内科学との関連 アレルギー疾患を中心に	講義
14	柔道整復学と内科学との関連 アレルギー疾患を中心に	講義
15	頭部・体幹の軟部組織損傷① P.337-349	講義
16	頭部・体幹の軟部組織損傷② P.337-349	講義
17	肩関節部の軟部組織損傷① P.350-360	講義
18	肩関節部の軟部組織損傷② P.350-360	講義
19	上腕部・肘関節部の軟部組織損傷① P.360-365	講義
20	前腕部の軟部組織損傷 P.365-369	講義
21	手関節部の軟部組織損傷 P.370-373	講義
22	手部・指部の軟部組織損傷 P.373-379	講義
23	股関節の軟部組織損傷 P.380-383	講義
24	大腿部・膝関節部の軟部組織損傷① P.383-393	講義
25	大腿部・膝関節部の軟部組織損傷② P.383-393	講義
26	下腿部・足関節部の軟部組織損傷① P.395-406	講義
27	下腿部・足関節部の軟部組織損傷② P.395-406	講義
28	総合演習①	講義
29	総合演習②	講義
30	総合演習③	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第3期	©大林典弘／荒井一彦／煙山奨也／瀬谷智美／西健喜／村越嵩紀／吉田晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学特講		6 単位 180 時間

## 【科目概要】

柔道整復師の業務に関連する最低限必要な知識に関する演習および演習に対する知識を深める講義を行う。

## 【到達目標】

これまで1～2年次で学習した解剖学、生理学、運動学、外傷学などを基に、柔道整復師に必要な知識を総合的に用いて現場で起こりうる様々な問題に対応できる幅広い知識と応用力を身につけることを到達目標とする。

## 【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要となる基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、演習で出題された内容をすべて確認すること。

## 【成績評価方法】

- ・適宜授業内で実施する演習問題の平均点と履修状況(課題の提出、授業への積極的な参加など)で評価する。
  - ・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。
  - ・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。
  - ・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価する。
- ※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

## 【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

## 【その他】

- ・演習形式と講義形式の2パターンで実施する。
  - ・これまでに学んだ科目を包括的に問題演習し、演習で正答率の低かった内容を中心に講義を行う。
- ※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。  
 ※シラバスは担当者によってまとめているが実際には別途配布する時間割に沿って行う。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) 柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる上肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
2	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる下肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
3	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる体幹の運動器疾患を中心に	講義・演習
4	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる運動療法を中心に	講義・演習
5	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる物理療法を中心に	講義・演習
6	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる頭部外傷を中心に	講義・演習
7	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる救急医学を中心に	講義・演習
8	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる骨の疾患を中心に	講義・演習
9	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる関節の疾患を中心に	講義・演習
10	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる筋の疾患を中心に	講義・演習
11	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、関係法規との関連 柔道整復に関わる医療法を中心に	講義・演習

12	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、関係法規との関連 柔道整復に関わる社会保障制度関連法を中心に	講義・演習
13	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
14	柔道整復師と「上肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
15	柔道整復師と「上肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
16	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
17	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
18	復習1(第13回～第17回の復習を目的とする) 事前学習:第13回～第17回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト1(第13～17回講義分)	講義・演習
19	柔道整復師と「下肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
20	柔道整復師と「下肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
21	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
22	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
23	復習2(第19回～第22回の復習を目的とする) 事前学習:第19回～第22回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト2(第19～22回講義分)	講義・演習
24	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」① 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
25	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」②(軟部組織) 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習

26	<p>復習3および総括(第1回～第25回の復習を目的とする)          事前学習:第1回～第25回の配布資料を再読すること          事後学習:配布資料を見直すこと          * 授業内確認テスト3(第1～25回講義分)</p>	講義・演習
27	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 総論編	講義・演習
28	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 血液編	講義・演習
29	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 循環編	講義・演習
30	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 呼吸編	講義・演習
31	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 消化&吸収	講義・演習
32	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 栄養と代謝編	講義・演習
33	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 体温編	講義・演習
34	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 尿の生成と排泄編	講義・演習
35	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 内分泌編①	講義・演習
36	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 内分泌編②	講義・演習
37	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 生殖編	講義・演習
38	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 骨編	講義・演習
39	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 体液編	講義・演習

40	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 神経編①	講義・演習
41	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 神経編②	講義・演習
42	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 運動編①	講義・演習
43	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 運動編②	講義・演習
44	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 筋肉編	講義・演習
45	運動器疾患に関わる診察法、治療法 柔道整復師にとって必要な診察法、治療法を画像検査、観血療法含めて学ぶ	講義・演習
46	上肢の末梢神経障害 胸郭出口症候群、頸椎椎間板ヘルニア、上肢絞扼神経障害などの症状・鑑別について学ぶ	講義・演習
47	下肢の末梢神経障害 腰椎椎間板ヘルニア、下肢絞扼神経障害などの症状・鑑別について学ぶ	講義・演習
48	脊椎の疾患 脊椎疾患の中で、柔道整復師の否適応疾患について鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
49	運動器の感染性疾患・非感染性疾患 運動器の感染性疾患・非感染性疾患について柔道整復師の適応の鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
50	運動器の腫瘍 柔道整復師の否適応疾患である腫瘍の鑑別・症状について学ぶ	講義・演習
51	運動器の先天性疾患 運動器の先天性疾患について柔道整復師の適応の鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
52	全身性神経・筋疾患 柔道整復師の否適応疾患である全身性神経・筋疾患について鑑別に必要な知識を学ぶ	講義・演習
53	骨端症 骨端症について症状・鑑別について学ぶ	講義・演習

54	スポーツ外傷・障害 スポーツ現場でみられる外傷・障害の発生頻度、特徴について学ぶ あわせて、スポーツ現場で発症しうる脊髄損傷の症状・対応について学ぶ	講義・演習
55	柔道整復師としての患者対応 柔道整復師としての職業倫理と社会的責任について学ぶ	講義・演習
56	医療面接 柔道整復師としての患者に信頼される医療面接について学ぶ	講義・演習
57	柔道整復師施術管理者・医療保険制度 柔道整復師の受領委任払いについて学び、社会的責任を全うしうる知識を修得する	講義・演習
58	柔道整復師に関わる社会保障制度 柔道整復師に関わる社会保障制度を理解し、セーフティネットの一役を担い得るための知識を学ぶ	講義・演習
59	柔道整復師に関わる法律・規則 柔道整復師として法令遵守し、社会的信頼を得るための知識を学ぶ	講義・演習
60	医療従事者に関わる法律・規則 医師など柔道整復師と関わる医療従事者の法令を学ぶ	講義・演習
61	柔道整復師と内科的疾患① 柔道整復師に必要な「消化器疾患」について復習する	講義・演習
62	柔道整復師と内科的疾患② 柔道整復師に必要な「呼吸器疾患」について復習する	講義・演習
63	柔道整復師と内科的疾患③ 柔道整復師に必要な「循環器疾患」について復習する	講義・演習
64	柔道整復師と内科的疾患④ 柔道整復師に必要な「血液疾患」について復習する	講義・演習
65	柔道整復師と内科的疾患⑤ 柔道整復師に必要な「内分泌・代謝疾患」について復習する	講義・演習
66	柔道整復師と内科的疾患⑥ 柔道整復師に必要な「膠原病」について復習する	講義・演習
67	柔道整復師と内科的疾患⑦ 柔道整復師に必要な「腎・尿路疾患」について復習する	講義・演習

68	柔道整復師と内科的疾患⑧ 柔道整復師に必要な「神経疾患」について復習する	講義・演習
69	柔道整復師と内科的疾患⑨ 柔道整復師に必要な「感染症」について復習する	講義・演習
70	柔道整復師と内科的疾患⑩ 柔道整復師に必要な「診察(医療面接・視診・打診・聴診・触診・生命徴候・感覚検査・反射検査)」について復習する	講義・演習
71	柔道整復師と「骨の構造、関節の構造」 骨折および、その治癒過程の理解に必要な「骨の構造」、また脱臼の理解に必要な「関節の構造」について復習する。	講義・演習
72	柔道整復師と「頭頸部の骨筋、上肢体幹の骨、上肢体幹の筋」 頭蓋骨損傷の理解に必要な「頭蓋骨の構造」「頭頸部の筋」、骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹の筋」について復習する。	講義・演習
73	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」① 骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の筋」について復習する。	講義・演習
74	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」② 骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の筋」について復習する。	講義・演習
75	柔道整復師と「消化器(口腔～直腸)」 外傷時の合併症の理解に必要な「口腔内の構造」、および「消化管(食道～直腸)」について復習する。	講義・演習
76	柔道整復師と「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、呼吸器(鼻～肺)①」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、および呼吸器(鼻腔～)」について復習する。	講義・演習
77	柔道整復師と「呼吸器(鼻～肺)②」「泌尿器(腎臓～尿道)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「呼吸器(～肺)」「泌尿器(腎臓～尿道)」について復習する。	講義・演習
78	柔道整復師と「生殖器(男性・女性)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器(男性・女性)」について復習する。	講義・演習
79	柔道整復師と「神経系(脳)」 頭部外傷時の合併症に関連する中枢神経障害の理解に必要な「神経系(脳)」について復習する。	講義・演習
80	柔道整復師と「神経系(脊髄・伝導路)」 外傷時の合併症に関連する中枢・末梢神経の障害の理解に必要な「神経系(脊髄・伝導路)」について復習する。	講義・演習
81	柔道整復師と「神経系(末梢神経)」 外傷時の合併症に関連する末梢神経障害の理解に必要な「神経系(末梢神経)」について復習する。	講義・演習

82	柔道整復師と「感覚器(外皮・視覚器・聴覚器)」 外傷時に合併する皮膚損傷の理解に必要な「外皮」および頭部外傷の合併症の理解に必要な「視覚器・聴覚器」について復習する。	講義・演習
83	柔道整復師と「内分泌器」 骨の癒合および病的骨折の発生機序の理解に必要な「内分泌器」について復習する。	講義・演習
84	柔道整復師に必要な「骨・筋」についての問題演習と再復習	講義・演習
85	柔道整復師に必要な「細胞と組織」「脈管系」についての問題演習と再復習	講義・演習
86	柔道整復師に必要な「消化管」「呼吸器」についての問題演習と再復習	講義・演習
87	柔道整復師に必要な「泌尿器」「生殖器」についての問題演習と再復習	講義・演習
88	柔道整復師に必要な「神経系」についての問題演習と再復習	講義・演習
89	柔道整復師に必要な「感覚器」「内分泌」についての問題演習と再復習	講義・演習
90	総合復習 第84回～第89回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義・演習

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025 年度	3年生 第1期	井口良平	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講③		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できず技能・知識の習得も目的とする。

## 【到達目標】

・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

## 【授業外における学習方法】

・グループになり学生同士での取り組み。

## 【成績評価方法】

・授業内試験にて評価する。  
・評価の観点は授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目  
・出席率、授業態度および試験で総合的に判断で判定する。  
※3回以上の欠席は授業内試験の受験を認めない。

## 【使用教材】

## 【その他】

## 【 内容・日程 】

回	内容	備考
1	鎖骨骨折の診断・整復	実技
2	鎖骨骨折の診断・整復	実技
3	鎖骨骨折の診断・整復	実技
4	鎖骨骨折の診断・整復	実技
5	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
6	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
7	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
8	上腕骨外科頸骨折の診断・整復	実技
9	コーレス骨折の診断・整復	実技
10	コーレス骨折の診断・整復	実技
11	コーレス骨折の診断・整復	実技
12	コーレス骨折の診断・整復	実技
13	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
14	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
15	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
16	まとめ	実技
17	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
18	肩鎖関節脱臼の診断・整復	実技
19	肩関節脱臼の診断・整復	実技
20	肩関節脱臼の診断・整復	実技
21	肩関節脱臼の診断・整復	実技
22	肩関節脱臼の診断・整復	実技
23	肩関節脱臼の診断・整復	実技
24	肘関節脱臼の診断・整復	実技
25	肘関節脱臼の診断・整復	実技
26	肘関節脱臼の診断・整復	実技
27	肘関節脱臼の診断・整復	実技
28	肘内障の診断・整復	実技
29	肘内障の診断・整復	実技
30	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第2期	井口良平	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講④		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。また認定実技審査に対応できず技能・知識の習得も目的とする。

## 【到達目標】

・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

## 【授業外における学習方法】

・グループになり学生同士での取り組み。

## 【成績評価方法】

・授業内試験にて評価する。  
・評価の観点は授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目  
・出席率、授業態度および試験で総合的に判断で判定する。  
※3回以上の欠席は授業内試験の受験を認めない。

## 【使用教材】

## 【その他】

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	肩腱板損傷の診察	実技
2	肩腱板損傷の診察	実技
3	肩腱板損傷の診察	実技
4	肩腱板損傷の診察	実技
5	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
6	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
7	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
8	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
9	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
10	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
11	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
12	ハムストリングスの肉ばなれ損傷の診察	実技
13	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
14	大腿四頭筋の打撲損傷の診察	実技
15	まとめ	実技
16	膝十字靭帯損傷の診察	実技
17	膝十字靭帯損傷の診察	実技
18	膝十字靭帯損傷の診察	実技
19	膝十字靭帯損傷の診察	実技
20	膝側副靭帯損傷の診察	実技
21	膝側副靭帯損傷の診察	実技
22	膝側副靭帯損傷の診察	実技
23	膝側副靭帯損傷の診察	実技
24	膝半月損傷の診察	実技
25	膝半月損傷の診察	実技
26	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
27	下腿三頭筋の肉ばなれ損傷の診察	実技
28	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
29	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
30	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1.2期	大林典弘	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講⑤		2 単位 60 時間

## 【科目概要】

・それぞれの損傷について、発生要因、機序、骨片転位に作用する筋群との関連、特徴および臨床症状を中心に、その応急処置の重要性、施術の意義を理解し、技術を修得する。

## 【到達目標】

・これまで1～2年次で学習した柔道整復学の知識・技術を基に、主に骨折・脱臼についての知識を深め、評価法・整復法・固定法・後療法などの臨床現場で必要な柔道整復術を理解・習得する。授業で学んだことを模擬的に体験することにより、知識を深め技術の修得を目標とする。

## 【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。

## 【成績評価方法】

・授業内実施の確認テスト、履修状況(課題の提出、授業への積極的な参加など)で評価する。  
 ・総合評価は100点満点とし、60点以上で合格とする。  
 ・単位取得に満たない(60点未満)生徒には課題提出等をもとめる場合がある。  
 ・授業態度については、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価する。  
 ※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

## 【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

## 【その他】

### ●履修にあたっての留意点

1. 1 講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。  
欠席することの無いように体調管理には充分配慮すること。
2. 授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。  
図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。

※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) 柔道整復師と「骨・関節損傷総論」①(骨折分類、症状) 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
2	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」②(骨折合併症、小児・高齢者骨折) 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
3	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」③(脱臼分類、症状) 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
4	柔道整復師と「神経・筋疾患」 柔道整復師に必要な「神経・筋疾患」に関する知識を学ぶ。それぞれの患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
5	柔道整復師と「診察・治療法」 柔道整復師に必要な「診察・治療法」に関する知識を学ぶ。それぞれの患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
6	復習1(第1回～第5回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第5回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト1(第1～5回講義分)	実技
7	柔道整復師と「下肢の疾患」①(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
8	柔道整復師と「下肢の疾患」②(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
9	柔道整復師と「下肢の疾患」③(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
10	柔道整復師と「下肢の疾患」④(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
11	柔道整復師と「下肢の疾患」⑤(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
12	柔道整復師と「上肢の疾患」①(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
13	柔道整復師と「上肢の疾患」②(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
14	復習2(第7回～第13回の復習を目的とする) 事前学習: 第7回～第13回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト2(第7～13回講義分)	実技
15	復習3および前期総括(第1回～第13回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第13回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト3(第1～13回講義分)	実技

16	柔道整復師と「上肢の疾患」③(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
17	柔道整復師と「上肢の疾患」④(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
18	柔道整復師と「上肢の疾患」⑤(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
19	柔道整復師と「上肢の疾患」⑥(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
20	復習4(第12回～第19回の復習を目的とする) 事前学習:第12回～第19回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト4(第12～19回講義分)	実技
21	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」① 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
22	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」② 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
23	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」③ 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
24	柔道整復師と「上肢の疾患」①(脱臼) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
25	復習6および総括(第1回～第28回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト6(第1～28回講義分)	実技
26	柔道整復師と「上肢の疾患」③(脱臼) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。手関節・手指関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
27	柔道整復師と「下肢の疾患」①(脱臼) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。股関節・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
28	柔道整復師と「下肢の疾患」②(脱臼) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。足関節・足趾関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
29	復習5(第21回～第28回の復習を目的とする) 事前学習:第21回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト5(第21～28回講義分)	実技
30	復習6および総括(第1回～第28回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト6(第1～28回講義分)	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期	瀬谷 智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	高齢者の外傷予防	1 単位	15 時間

## 【科目概要】

高齢者を取り巻く環境・制度、身体的特性を学び、機能訓練指導員としての知見を深める。  
機能訓練指導員の役割、職域を学ぶ。

## 【到達目標】

高齢者の特性を理解し、それを踏まえた運動プログラムの立案ができる。  
多職種連携の重要性を理解し、高齢者の自立支援について適切な対応をすることができる。

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

授業内試験及び定期試験の成績を踏まえて強化をする。

## 【使用教材】

教科書「柔道整復師と機能訓練」、配布資料

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と介護保険	実技
2	発達と老化の理解	実技
3	認知症の理解	実技
4	介護保険制度と介護予防、ロコモティブシンドローム	実技
5	高齢者自立支援の理解	実技
6	機能訓練指導員と機能訓練指導①	実技
7	機能訓練指導員と機能訓練指導②	実技
8	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	午前部
開講年度	履修課程	担当教員	
2025年度	3年生 第1期	瀬谷 智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	競技者の外傷予防		1 単位 15 時間

## 【科目概要】

運動生理学、外傷の発生要因、メディカルチェック、コンディショニング（ストレッチ、テーピング、筋力トレーニング等）を学び、競技者の外傷予防に対する知識を学ぶ。また、競技特性を踏まえた受傷例や予防トレーニングについても学ぶ。

## 【到達目標】

メディカルチェック各項目の意義を理解し、患者の評価を的確に行うことができる。  
コンディショニングの方法を理解し、競技特性に応じた外傷予防を提案することができる。

## 【授業外における学習方法】

## 【成績評価方法】

実技試験及び定期試験の成績を踏まえ評価をする。

## 【使用教材】

教科書「競技者の外傷予防」、配布資料

## 【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	1. 運動生理学の概要	実技
2	2. 競技者の外傷予防 概論	実技
3	3. 競技者の外傷予防のための実技①	実技
4	3. 競技者の外傷予防のための実技②	実技
5	4. 種目別の外傷予防とその実際①	実技
6	4. 種目別の外傷予防とその実際②	実技
7	4. 種目別の外傷予防とその実際③	実技
8	まとめ	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔道整復コース(3年制)	昼夜別 昼間部:午前
開講年度 2025年度	履修課程 3年生 第1・2・3期	担当教員 ◎荒井一彦・吉田 晋・紺野直能・井口良平・菊地正	
講義区分 基礎分野	授業科目名 臨床実習(3年生)		1単位 45時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校附属臨床実習施設での最終臨床実習とし、将来につながる技術の研鑽に努める。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、意欲態度（35％）付帯業務（10％）診察補助（40％）業務理解（15％）の4項目とする。</li> <li>・実習過程で学生の進捗状況を評価し、まとめる。</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包帯固定学 南江堂</li> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日 目	指導教員に随行し下記の項目を補助し実践的に学習する。	実技
2		・受付業務	実技
3		・初診	実技
4		・再診	実技
5		・整復、手技	実技
6		・患部固定	実技
7		・運動療法	実技
8		・指導管理	実技
9		・開始時・終了時の業務	実技
10		ロールプレイ	実技
11	第5日目	総まとめ	実技